

令和7年 11 月 21 日 (金)

図書新聞

愛媛県立新居浜商業高等学校図書委員会 Vol.4

近頃、急に気温が下がり始め、もうすっかり冬の雰囲気ですね。もうじき2学期末考査も始まります。慌ただしくなりますが、こんな時期こそ、ゆっくりと本を読む時間をとるのもいいと思いますよ。今回は 10 月・11 月合併号です。

図書委員オススメの本！

書名『君の臓腑を食べたい』 住野 よる 著

内気で静かな、「名前のない僕」と臓腑の病気により余命がいくばくもない「日常のない彼女」が織りなす、青春小説です。

当たり前前に生きている毎日と人の命の尊さについて深く考えさせられる物語です。

気持ちを伝えたい人がいるなら、伝えられるうちに伝えるべきだとも考えました。

是非皆さんも読んでみてください。

～知っていますか？～

『君の臓腑を食べたい』はたびたびここでも紹介されています。図書委員といえば、やはり本好きで多くの作品を知る人になることが多いもの。そうした人たちに何度も選ばれる作品です。是非読んでみてください。

文章を読むのが得意でない人は、実写で映画化されてもいますので、サブスクリプション動画やレンタルショップでDVDを借りるなどして観てください。(主題歌は sumika の「春夏秋冬」)



書名『人類最強のヴェネチア』 西尾 維新 著

物語シリーズでよく知られている西尾維新さんの人類最強シリーズです。西尾さん独特のおしゃれかつ面白い言い回し、ちょっとした推理描写もあります。キャラクター同士の関係性、犯人の思考、全てが意外でどれも面白く、あっという間に読めます。人類最強シリーズはどこから読んでも楽しめてオススメです。是非読んでほしいです。



書名『五万年後に意外な結末 プロメテウスの紅蓮の炎』 桃戸 ハル 著

この本のいいところは、結末が一つで終わらず、たくさんの結末があるところです。また、ページごとにイラストがあって漫画のような雰囲気があるのもいいところです。つまり、一般的な小説のように文章ばかりの作品が苦手な人も、イラストを見ることで内容が解るということで、飽きの来ない作品です。



「プロメテウス」って何？

プロテイン（たんぱく質）の一種……ではありません。

ギリシア神話に登場する神の一柱で、人間に「火」を与えたことを、最高神ゼウスに対する反逆とみなされて罰せられました。

一方で、「人間に知恵と技術をもたらした神」として知られています。

今、図書室では「〇〇で働く人」コーナーを開設しています。

前線で活躍しているプロフェッショナルに教えてもらえるなんて贅沢！

進路探しにもぴったりですよ。

新任の先生のオススメ本



☆松浦 淳先生☆



書名 『スタイルズ荘の怪事件』 アガサ・クリスティ 著

・あらすじ

第一次世界大戦の傷病兵ヘイスティングズは旧友に招かれてスタイルズ荘を訪れるが、屋敷の主人が何者かに毒殺されてしまう。ヘイスティングズは近所で偶然再会した名探偵エルキュール・ポアロに事件の捜査を依頼する。

・オススメポイント

ミステリーの女王と呼ばれ数々の名作を生み出したアガサ・クリスティのデビュー作です。人間心理を読み解くように事件の真相に迫るエルキュール・ポアロの魅力に引き込まれます。

アガサ・クリスティの作品はただの推理ゲームではなく、当時の欧州文化や社会の雰囲気、人と人との関係を知ることができるので刺激的です。名探偵ポアロが登場する作品はシリーズとなっており、大学生の頃によく読んでいました。

読書にハマるきっかけは何でも良いと思います。ワクワクする本を読んでください。

☆芝 海周先生☆



書名 『心を整える』 長谷部 誠（サッカー元日本代表主将） 著

・あらすじ

「心は鍛えるものではなく、整えるものだ」という主張の下、どんな状況でも心を整えて安定したパフォーマンスを出すための、メンタルコントロール術が語られています。

・オススメポイント

「56の習慣」という形で、日常に取り入れやすい行動や考え方が書かれており、学校生活にも応用できる内容があります。

私も心を整えて、頑張ります！

§ § § 編集者のつぶやき § § §

子供の頃、父から誕生日プレゼントに本を贈られたことがあります。一応お礼は言いましたが、子ども心にながかりました。外で走り回ることが多いような子どもだったので、何か遊ぶものが欲しかったのです。

そんな私も成長して読書の面白さと大切さに気付き、同時に子どもの私に本を贈った父の気持ちが染みてきました。そこで、ある何でもない日、父に一冊のハードカバーの本を贈りました。それから少したった何でもない日、父からその本が返されました。「手元に置いていつでも読めるようにしたいから、文庫版を買い直した。いい本だからおまえも読め。」

それから少し後、がんに侵されていた父は病院で息を引き取りました。病室に残されたものを片付けているとき、父のベッドの枕の下から出てきたのは、その本でした。それを見た母が言いました。「ああ、この本のことを言っていたのね、お父さん。『あいつの持っている方が、字が大きくて読みやすいから持って来てくれ』と言っていたのは……。」

本は人と人をつなぐもの。私はそう信じています。